

Ⅲ 学習

1 教務関係

- 1) 学期
- 2) 授業時間
- 3) 単位
- 4) 単位の修得
- 5) 授業評価
- 6) 履修登録
- 7) 再履修
- 8) 休講・補講・集中講義・授業時間割表
- 9) 試験等の受験心得

2 履修関係

- 1) 卒業の要件
- 2) 授業科目 平成29年度入学生適用
- 3) 平成29年度教育課程表
- 4) 各種資格
- 5) 教職課程
- 6) 放送大学単位互換について
- 7) 札幌圏大学・短期大学間
単位互換協定について

3 学費等納付金について

- 1) 学費等納付金
- 2) 別途徴収となる実習費・履修費
- 3) 納付期日

1. 教務関係

1) 学期

学年を分けて、次の2学期とします。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

2) 授業時間

平常の授業は授業時間割表に従って次の時間で行われます。

1 講目	9 : 00~10 : 30
2 講目	10 : 40~12 : 10
3 講目	13 : 10~14 : 40
4 講目	14 : 50~16 : 20
5 講目	16 : 30~18 : 00
6 講目	18 : 10~19 : 40

3) 単位

単位とは、授業科目の修得に必要な学修量を測る基準となるものです。大学で開講している授業科目には、すべて履修した場合に与えられる単位数が設定されています。単位制度とは、各授業科目に配当されている単位を履修し、その単位数を一定以上修得することで卒業できる制度のことです。大学での学習は与えられるものではなく、自ら行うものです。単位を修得するには、教室における学習だけでなく、教室外での自学自習が必要になります。単位は、授業に出席し受講するだけでなく、自習を行い、さらに試験その他の方法によって合格と判定されなければなりません。すなわち、単位は、これらを総合した結果、認定されるものなのです。1単位の授業科目は、標準として、教室外での自学自習をもあわせて、45時間の学習を必要とする内容で構成されています。本学では、授業の方法、教育効果、授業時間外に必要な自学自習等を考慮して、次の基準によって計算しています。

- ・ 講義・演習：教室内における1時間の講義・演習に対して、教室外における2時間の自学自習を必要とするものとし、毎週1時間15週の講義・演習を1単位とします。
- ・ 実験・実習・実技：実験室、実習室あるいは体育館等において行われる授業に対しては、毎週2時間15週を1単位とします。

4) 単位の修得

①単位認定を受ける資格

- ・履修登録をしたもの。
- ・受講科目について出席時間数が授業時間数の2/3以上出席したもの（受講科目によっては補講等を与える場合があります）。
- ・授業料、その他納付金を納入したもの。

②成績評価

成績評価は、S・A・B・C・Dの5段階によって評価し、SからCまでを合格として単位が与えられます。Dは不合格とし、単位認定されません。授業科目ごとに定められた評価基準については、講義要綱（シラバス）で確認してください。

<成績の評価と内容、100点方式による成績評価基準>

- S（秀） 特に優秀な成績（90点以上）
- A（優） 優れた成績（89～80点）
- B（良） 科目の要求を満たす標準的な成績（79～70点）
- C（可） 合格と認められる最低限の成績（69～60点）
- D（不可） 不合格（59点以下）
- I（保留） 履修未完了または成績評価の一時保留

●試験による認定

試験は授業時間中に実施されます。担当教員の指示に従ってください（定期試験期間はありません）。

●レポート等による認定

- ・レポート、作品等の提出をもって試験に代えます。所定の期限までに指定場所に提出してください。
- ・学習支援オフィスに提出の指示があった場合には、所定の表紙（レポート提出票）をホッチキス止めをして提出し、受領書を受け取り確実に保管してください。
- ・担当教員へレポートの郵送はしないでください（ただし、特に指示があった場合はこの限りではありません）。

③GPA制度

本学では、履修した全科目の成績の平均値、GPA（Grade Point Averageの略）を算出します。GPAは成績評価を明確にすることにより、自分自身の学習達成度を把握し、今後の学習目標の設定と計画的な履修に活用します。GPA制度では、一度履修した科目は責任を持って確実に履修することが求められています。したがって、学生は自分の履修状況を常に認識し、無理のない学習計画を立てる必要があります。GPAを活用することにより、履修計画時の参考になります。

●GPAの算出方法

S・A・B・C・Dの5段階の成績評価には、それぞれ以下のグレードポイント（GP）が割り当てられます。

$$S = 4.0 \quad A = 3.0 \quad B = 2.0 \quad C = 1.0 \quad D = 0$$

GPAには、学期ごとに算出される「学期GPA」、学年毎に算出される「年間GPA」、そして入学時より各学期を通算して算出する「通算GPA」があります。それぞれの計算式は、以下の通りです。GPAの計算は、小数点以下第3位を四捨五入します。

$$\text{学期GPA} = \frac{(\text{その学期に評価を受けた科目で得たGP}) \times (\text{科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

$$\text{年間GPA} = \frac{(\text{その学年に評価を受けた科目で得たGP}) \times (\text{科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その学年に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

$$\text{通算GPA} = \frac{((\text{各学期に評価を受けた科目で得たGP}) \times (\text{その科目の単位数}) \text{の合計}) \text{の総和}}{(\text{各学期に評価を受けた科目の単位数の合計}) \text{の総和}}$$

「GPAの算出例」

授業科目名	単位数	評価	グレードポイント (GP)
基礎教育セミナー I	2単位	S	4.0×2=8.0
英語コミュニケーション I	2単位	A	3.0×2=6.0
健康体育（実技を含む）	2単位	B	2.0×2=4.0
情報機器操作 I	2単位	C	1.0×2=2.0
こどもと安全	2単位	C	1.0×2=2.0
日本国憲法	2単位	B	2.0×2=4.0
合 計	①12単位		②26.0

$$\text{GPA} = \text{②} \div \text{①} \rightarrow 26.0 \div 12 = 2.16\bar{6} \approx 2.17$$

*小数点以下第3位を四捨五入する

●GPAが適用される科目について

短大共通科目、学科専門科目のうち、卒業要件単位として単位認定される科目は全て対象となります。

平成30年度以降、GPAの運用方法が変更される場合があります。

●科目履修の取り消しについて

科目履修の取り消しを希望する場合は、各学期の授業開始後、第6週目に手続きができますが、それ以降は原則的に認めません。放棄された科目の成績は、D（不可）となり単位認定されません。学生には責任のある履修行動が求められますので、計画的な履修登録を行ってください。

●GPAの活用方法について

学期GPAは、次学期に向けた履修指導を行う上で活用されます。さらに通算GPAは、奨学金の選定、学業表彰対象者の選定、受講希望者数が過大な講義における受講人数制限の際の選定基準、教職科目履修制限の選定基準などに活用されることがあります。また教員は、学生のGPAデータをもとに授業改善に役立てます。

5) 授業評価

本学では学生の皆さんにより良い授業を保障するために、FD活動に力を入れています。FD (Faculty Development) 活動とは、授業内容及び方法の改善を図るための組織的な活動のことで、その一環として学期授業終了ごとに授業評価を導入しています。これは、皆さん自身の授業への取り組み姿勢を振り返ると共に、改善に向けての要望等を記述するものです。教員と学生が共に作り上げて行く授業が大切ですので、積極的にかつ建設的な評価を期待しています。

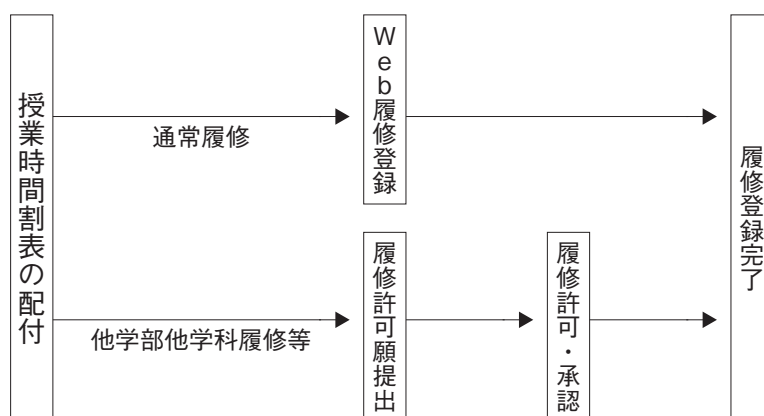
6) 履修登録

①履修登録期間

前学期初めの定められた期間内に、履修しようとする科目について履修登録を行わなければなりません。授業は履修登録した科目でなければ受講することはできません。

定められた期間内に履修登録を怠るとその学期の履修はもとより授業を受けることも、その科目の試験を受けることもできません。したがって、単位は認定されないの、十分に注意してください。

②履修登録の流れ



③履修制限

授業科目によっては履修人数を制限することがあるのであらかじめ承知しておいてください。

④科目の不開講について

講義科目（実技、実習、演習科目及び免許・資格必修の講義科目を除く。）で、受講者数が一定数に満たない場合は、その授業を不開講とします。所定の期日までに掲示板でお知らせします。

⑤履修登録に関する注意点

- ・定められた期間内にWeb履修登録を行います。
- 他学部他学科履修、単位互換科目の履修にあたっては、履修許可願の提出が必要です。
- ・授業開始後6週目に履修登録取消期間を設けます。

- ・履修登録で疑問や不明な点がある場合は、必ず本人が直接学習支援オフィス窓口で確認してください。
- ・履修登録期間に関することは前・後学期開始前にポータル等で連絡しますので確認を忘れないでください。

7) 再履修

- ①必修科目の単位を修得できなかったときは、必ず再履修してください。
- ②選択科目の単位を修得できなかったときは、その科目を再履修するか他の科目を履修してください。いずれも定められた期間に履修登録をしなければなりません。
- ③以前に履修可能でありながら、履修しなかった科目を履修する場合も再履修扱いとなります（一部の科目を除く）。

8) 休講・補講・集中講義・授業時間割表

- ①休 講：事前に学生ポータル又は所定の掲示板でお知らせします。なお、授業時間が始まって30分以上たっても担当教員が教室にこないときは、学習支援オフィスへ連絡して指示を受けてください。
- ②補 講：授業時間数がやむを得ない事情により不足した場合は、担当教員の判断でこれを補うための補講を行います。そのつど連絡しますので、学生ポータル又は所定の掲示板等を注意深く見るようにしてください。
- ③集 中 講 義：授業科目の中には、予め定められた期間に連続して授業を行う科目があります。これらの科目は事前に実施予定を連絡しますので、学生ポータル又は掲示板等で確認してください。
- ④授業時間割表：授業を受けるためには、その科目の開講されている曜日・時限・教室・担当教員を知らなければなりません。そのため学年始めに授業時間割表が配付されます。この授業時間割表から、それぞれの履修計画にそって自分の時間割表を作成するようにしてください。

9) 試験等の受験心得

- ①受験にあたっては、学生としての本分を自覚し、少しでも不正・不注意の行為を行ってはなりません。
- ②試験にあたり、次の各号に掲げる不正行為を行った者は、当該授業科目及び当該授業科目の試験と同一の学期に実施される全ての授業科目の試験を無効とします。
 - ・カンニングペーパー及びこれに類するものを所持又は使用すること。

- ・身代わり受験すること。
- ・机上等への書き込みをし、かつ、見ること。
- ・他人の答案をのぞき見ること、及び故意に見せること。
- ・他人の学生証で受験すること。
- ・指定された書籍、辞書等以外のものを使用すること。
- ・その他不正とみなされる行為をすること。

③不正行為があった場合の措置又は処分は次のとおりです。

- ・第1回目の不正行為者 1週間の自宅謹慎措置とする。
- ・第2回目の不正行為者 3カ月の停学処分とする。
- ・第3回目の不正行為者 退学処分とする。

④学生証を机上に置くように指示され、当日忘れて所持していない場合は学生生活支援オフィスにおいて所定の手続きにより「仮学生証」の発行を受けてください。

⑤試験を欠席し、その理由が「欠席届の取扱いについて」(Ⅱ学生生活1.)の項目に該当する者は「欠席届」を提出してください。

⑥レポート、作品等の提出は指定の期限を厳守してください。期限の過ぎたもの、指示以外のものの提出は受付しません。

⑦その他試験に関することは、全て担当教員の指示に従ってください。

2. 履修関係

1) 卒業の要件

[ライフデザイン学科]

① 短大共通科目 必修	② 学科専門科目 必修	③ ①②の全科目 選択	卒業要件 単 位
8	16	38	

[こども学科]

履修コース	①短大共通科目	②学科専門科目	③ ①② の全科目	卒業要件 単 位
	必修	必修	選択	
保育コース	8	20	34	62
音楽コース		20		
教育コース		20		

2) 授業科目 平成29年度入学生適用

ライフデザイン学科 授業科目一覧表

○単位は必修

		授 業 科 目 の 区 分 等					
		授業科目名		単位	授業科目名		単位
短大共通科目		基礎教育セミナーⅠ	②	情報機器操作Ⅰ	②	日本国憲法	2
		基礎教育セミナーⅡ	②	健康体育(実技を含む)	2	外国の歴史と文化	2
		英語コミュニケーションⅠ	②	こどもと安全	2		
学 科 専 門 科 目	基 礎 ユ ニ ッ ト 群	英語コミュニケーションⅡ	②	韓国語	2	フランス語	2
		情報機器操作Ⅱ	②	中国語	2	スペイン語	2
		キャリアデザイン	②	ドイツ語	2		
		ライフデザイン	②	陶芸	2	ファッションとリフォーム	1
		ライフデザイン演習	②	油彩	2	フィットネスプログラム	1
	ラ イ フ デ ザ イ ン ユ ニ ッ ト 群	キャリアデザイン演習	②	デジタルイメージ	2	チームビルディングゲーム	1
		専門ゼミⅠ	②	デジタルデザイン	2	インターンシップⅠ	2
		専門ゼミⅡ	②	グラフィックデザイン	2	インターンシップⅡ	2
		カラーコーディネート	2	基礎デザイン	1		
		コミュニケーション論	2	情報社会及び情報倫理	2	プロジェクトワーク	2
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン コ ー ス ユ ニ ッ ト 群	地域学Ⅰ	2	秘書概論	2	マネジメントゲーム	2
		地域学Ⅱ	2	秘書実務Ⅰ	2	3RショップA	2
		会計学	2	秘書実務Ⅱ	2	3RショップB	2
		企業と経営	2	簿記原理A	2	コンピュータ会計	1
		現代と経済	2	簿記原理B	2	ビジネスワークショップⅠ	2
		エコと経済	2	ビジネス関連法規Ⅰ	2	ビジネスワークショップⅡ	2
		情報学基礎	2	ビジネス関連法規Ⅱ	2		
		ファッションユニット群	2	ファッション論(服飾文化史を含む)	2	ファッションデジタルアート	1
	服飾造形論	2	ファッションデザイン	2	アクセサリークラフトA	1	
	ドレスコーディネート論	2	ファッションビジネス	2	アクセサリークラフトB	1	
メイクアップ演習(ネイルアートを含む)	2	ファッション画	1	ショップディスプレイ	2		
テキストスタイル	1	ファッション造形実習Ⅰ	2	ステージプランニング実習	1		
ドレーピング	1	ファッション造形実習Ⅱ	2	アパレルCAD	1		
パターンメイキング基礎	1	ファッション造形実習Ⅲ	2	染色	1		
キッズファッション	1	ファッション造形実習Ⅳ	2				
フ ァ ャ シ ョ ン 舞 台 アー ト コ ー ス ユ ニ ッ ト 群	ミュージカル研究	1	バックステージⅠ	2	舞台映像製作入門	1	
	ダンス	1	バックステージⅡ	2	舞台映像編集	1	
	声優トレーニング	1	ロールプレイング演習	2	舞踊研究	1	
	俳優トレーニング	1	プレゼンテーション演習	2	身体表現	1	
	朗読・ナレーション	2	舞台芸術研修	2	演劇入門Ⅰ	1	
	ラジオ・ドラマ製作	2	舞台衣装(メイク・ヘアメイクを含む)	2	演劇入門Ⅱ	1	
	特殊効果	2	舞台装置入門(舞台デッサンを含む)	2	照明・音響実習Ⅰ	1	
	アクティング	2	舞台木材道具製作演習	2	照明・音響実習Ⅱ	1	
	外国人留学生科目	日本語	2	現代日本の文化	2		

備考

- 1 表中○数字の単位は、必修科目の単位数を示す。
- 2 学則第40条第1項に規定する62単位以上は、同条第2項に規定するコースのうちから選択し、別掲の卒業要件に掲げる授業科目区分ごとに定める単位数以上の単位を修得するものとする。
- 3 外国人留学生にあつては、別掲の卒業要件に掲げる「短大共通科目」とあるのは、「短大共通科目及び外国人留学生科目」と読み替えて適用することができる。

こども学科 授業科目一覧表

○単位は必修

		授 業 科 目 の 区 分 等						
		授業科目名		単位	授業科目名		単位	
短大共通科目		基礎教育セミナーⅠ	②	情報機器操作Ⅰ	②	日本国憲法	2	
		基礎教育セミナーⅡ	②	健康体育（実技を含む）	2	外国の歴史と文化	2	
		英語コミュニケーションⅠ	②	こどもと安全	2			
学 科 専 門 科 目	コース共通科目	教育原理	②	こどもと絵本	2	保育内容演習Ⅱ	2	
		器楽Ⅰ	①	こどもと自然	2	総合実践演習	2	
		器楽Ⅱ	①	こどもと野外活動	2	幼児身体教育学	2	
		器楽応用	1	赤ちゃん学	2	応用教育セミナーⅠ	2	
		こどものファッション	2	保育内容演習Ⅰ	2	応用教育セミナーⅡ	2	
				児童家庭福祉	2	こどもの食と栄養	2	言語表現
	保育士関連科目		社会福祉	2	家庭支援論	2	保育実習Ⅰ	4
			相談援助	1	保育課程論	2	保育実習指導ⅠA	1
			社会的養護	2	乳児保育	2	保育実習指導ⅠB	1
			保育者論	2	障害児保育	2	保育実践演習	2
			保育の心理学Ⅰ	2	社会的養護内容	1	*現代こども学	2
			保育の心理学Ⅱ	1	保育相談支援	1	保育実習Ⅱ	2
			こどもの保健ⅠA	2	身体表現	1	保育実習Ⅲ	2
			こどもの保健ⅠB	2	音楽表現	1	保育実習指導Ⅱ	1
			こどもの保健Ⅱ	1	造形表現	1	保育実習指導Ⅲ	1
	関連科目	幼稚園教諭	幼児理解の理論と方法	2				
		幼稚園教諭						
	保育士・幼稚園教諭関連科目		保育原理	②	保育内容人間関係	2	保育内容健康	2
			保育内容総論	②	保育内容言葉	2		
			保育内容環境	2	保育内容表現	2		
	幼稚園・小学校教諭関連科目		教職概論	②	教育実習講義Ⅰ	2	☆算数	2
			教育心理学	②	教育実習講義Ⅱ	2	生活	2
			教育課程論	2	教育実習	4	音楽	2
			教育方法論（情報機器・教材活用を含む）	②	教職実践演習（幼・小）	2	図画工作	2
			教育相談とカウンセリング	2	☆国語（書写を含む）	2	体育	2
コース専門科目	保育コース	*幼児体育指導法	2	こどもの表現遊び研究	2			
		*こどもの遊び論	2	こどもの造形遊び研究	2			
				こどもの運動遊び研究	2			
	音楽コース	◇こどものリズム表現Ⅰ	2	◇音楽療法概論	2	こどものうた研究	2	
		こどものリズム表現Ⅱ	2	◇音楽療法演習	2	こどもの合奏研究	2	
						こどもの音楽研究	2	
教育コース	小学校教諭関連科目	社会	2	理科指導法	2	道徳指導法	1	
		理科	2	生活科指導法	2	特別活動指導法	1	
		家庭	2	音楽科指導法	2	生徒指導（進路指導を含む）	2	
		国語科指導法	2	図画工作科指導法	2	☆外国語活動	2	
		社会科指導法	2	家庭科指導法	2	小学校教育教材研究	2	
		算数科指導法	2	体育科指導法	2	小学校教育授業研究	2	
外国人留学生科目		日本語	2	現代日本の文化	2			

備考

- 1 表中○数字の単位は、必修科目の単位数を示す。
- 2 保育コースを選択して履修する学生は、表中*を付した授業科目を修得しなければならない。
- 3 音楽コースを選択して履修する学生は、表中◇を付した授業科目を修得しなければならない。
- 4 教育コースを選択して履修する学生は、表中☆を付した授業科目を修得しなければならない。
- 5 学則第40条第4項に規定する62単位以上は、同条第5項に規定する履修コースのうちから、いずれか一つの履修コースを選択し、別掲の卒業要件に掲げる授業科目区分ごとに定める単位数以上の単位を修得するものとする。
- 6 外国人留学生にあっては、別掲の卒業要件に掲げる「短大共通科目」とあるのは、「短大共通科目及び外国人留学生科目」と読み替えて適用することができる。

3) 平成29年度教育課程表

短期大学部 共通科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
基礎教育セミナーⅠ	演習	②				担当教員	
基礎教育セミナーⅡ	演習		②			担当教員	
英語コミュニケーションⅠ	演習	②				田光子	ライフデザイン学科
						M.J.マーフィー	こども学科
情報機器操作Ⅰ	演習	②				平井伸之	ライフデザイン学科
						大関慎	
						湯澤直樹	こども学科
健康体育(実技を含む)	講義				2	花井篤子	ライフデザイン学科
						千葉直樹	こども学科1年次と同時展開
						畠山孝子	
						花井篤子	こども学科
						千葉直樹	ライフデザイン学科2年次と同時展開
						畠山孝子	
こどもと安全	講義				2	菊地達夫	
日本国憲法	講義	2				菊地達夫	
外国の歴史と文化	実習	2	2	2		担当教員	集中講義

外国人留学生科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
日本語	講義	2				田光子	留学生対象
現代日本の文化	講義		2			菊地達夫	留学生対象 集中講義

ライフデザイン学科 学科専門科目 コース共通科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
基礎ユニット群							
英語コミュニケーションⅡ	演習		②			田光子	
情報機器操作Ⅱ	演習		②			平井伸之 大関慎	
キャリアデザイン	講義	②				田口智子	
韓国語	講義			2		田光子	
中国語	講義			2		田恩蘋	
ドイツ語	講義			2		菊地達夫	
フランス語	講義				2	江口修	
スペイン語	講義				2	田中恵子	
ライフデザインユニット群							
ライフデザイン	講義	②				大関慎	
ライフデザイン演習	演習		②			大関慎 田口智子 田光子 平井伸之 湯澤直樹	
キャリアデザイン演習	演習		②			湯澤直樹	地域貢献科目
専門ゼミⅠ	演習			②		担当教員	
専門ゼミⅡ	演習				②	担当教員	
カラーコーディネート	講義	2				勝田信吾	
陶芸	演習	2				對馬賢二	
油彩	演習			2		林亨	
デジタルイメージ	演習	2				浅井貴也	
デジタルデザイン	演習		2			森井綾	
グラフィックデザイン	演習		2			田恩蘋	
基礎デザイン	実習	1				勝田信吾	
ファッションとリフォーム	実習				1	北村悦子	
フィットネスプログラム	実技		1			花井篤子	
チームビルディングゲーム	実技			1		平井伸之 田光子 村松幹男	
インターンシップⅠ	演習		2			田口智子	集中講義
インターンシップⅡ	演習			2		田口智子	集中講義

ライフデザイン学科 学科専門科目 コース専門科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
キャリアデザインコースユニット群							
コミュニケーション論	講義	2				田口智子	
地域学Ⅰ	講義	2				佐々木孝一	
地域学Ⅱ	講義		2			佐々木孝一	
会計学	講義				2	湯澤直樹	

科 目 名	授業 形態	年次・単位数				教 員 名	備 考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
企 業 と 経 営	講義			2		田 口 智 子	
現 代 と 経 済	講義			2		籙 本 智 之	
エ コ と 経 済	講義			2		湯 澤 直 樹	
情 報 学 基 礎	講義	2				大 関 慎	
情 報 社 会 及 び 情 報 倫 理	講義		2			大 関 慎	
秘 書 概 論	講義	2				田 口 智 子	
秘 書 実 務 I	講義		2			田 口 智 子	
秘 書 実 務 II	講義・実習			2		田 口 智 子	含実習
簿 記 原 理 A	講義	2				湯 澤 直 樹	
簿 記 原 理 B	講義		2			湯 澤 直 樹	
ビ ジ ネ ス 関 連 法 規 I	講義			2		倉 本 英 明	
ビ ジ ネ ス 関 連 法 規 II	講義				2	倉 本 英 明	
プ ロ ジ ェ ク ト ワ ー ク	講義		2			田 口 智 子	
マ ネ ジ メ ン ト ゲ ー ム	演習				2	籙 本 智 之	
3 R シ ョ ッ プ A	演習	2				湯 澤 直 樹	
3 R シ ョ ッ プ B	演習		2			湯 澤 直 樹	
コ ン ピ ュ ー タ 会 計	実習	1				湯 澤 直 樹	
ビ ジ ネ ス ワ ー ク シ ョ ッ プ I	演習	2				田 口 智 子	
ビ ジ ネ ス ワ ー ク シ ョ ッ プ II	演習		2			田 口 智 子	
ファッション舞台アートコースユニット群 ファッションユニット群							
衣 服 素 材	講義		2			北 村 悦 子	
服 飾 造 形 論	講義・実習	2				辻 美 恵 子	
ド レ ス コ ー デ ィ ー ネ ー ト 論	講義・実習		2			富 田 玲 子	
メ イ ク ア ッ プ 演 習 (ネ イ ル ア ー ト を 含 む)	講義・実習				2	二 橋 絵 美 小 笠 原 諒	
テ キ ス タ イ ル	実習			1		大 信 田 静 子	
ド レ ー ピ ン グ	実習			1		北 村 悦 子	
パ タ ー ン メ ー キ ン グ 基 礎	実習	1				富 田 玲 子	
キ ッ ズ フ ァ ッ シ ョ ン	実習			1		大 信 田 静 子	
フ ァ ッ シ ョ ン 論 (服 飾 文 化 史 を 含 む)	講義				2	北 村 悦 子	
フ ァ ッ シ ョ ン デ ザ イン	講義・実習		2			北 村 悦 子	
フ ァ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	講義	2				泉 山 幸 代	
フ ァ ッ シ ョ ン 画	実習	1				田 恩 蘋	
フ ァ ッ シ ョ ン 造 形 実 習 I	実習	2				辻 美 恵 子	
フ ァ ッ シ ョ ン 造 形 実 習 II	実習		2			辻 美 恵 子	
フ ァ ッ シ ョ ン 造 形 実 習 III	実習			2		北 村 悦 子	
フ ァ ッ シ ョ ン 造 形 実 習 IV	実習				2	大 信 田 静 子	
フ ァ ッ シ ョ ン デ ジ タ ル ア ー ト	実習				1	大 信 田 静 子	
ア ク セ サ リ ー ク ラ フ ト A	実習		1			辻 美 恵 子	
ア ク セ サ リ ー ク ラ フ ト B	実習				1	辻 美 恵 子	
シ ョ ッ プ デ ィ ス プ レ イ	実習			2		早 坂 眞 梨 子	
ス テ ー ジ プ ラ ン ニ ン グ 実 習	実習				1	端 谷 真 子	集中講義一部ポルト実施科目
ア パ レ ル C A D	実習		1			富 田 玲 子	
染 色	実習		1			米 坂 豊 樹	

科 目 名	授業 形態	年次・単位数				教 員 名	備 考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
ファッション舞台アートコースユニット群		舞台芸術ユニット群					
ミュージカル研究	実習		1			田 光 子 平 井 伸 之 村 松 幹 男 竹 内 聡 実	
ダンス	実技	1				村 松 幹 男 田 光 子 平 井 伸 之 竹 内 聡 実	ポルト実施科目
声優トレーニング	実習		1			平 井 伸 之 村 松 幹 男 小 林 なるみ	
俳優トレーニング	実習	1				平 井 伸 之 村 松 幹 男	
朗読・ナレーション	演習	2				松 本 直 人	
ラジオ・ドラマ製作	演習			2		村 松 幹 男 田 光 子 平 井 伸 之 富 井 昭 次	一部集中講義
特殊効果	演習				2	吉 田 ひでお	ポルト実施科目
アクティング	演習		2			平 井 伸 之 村 松 幹 男	
バックステージ I	演習	2				村 松 幹 男 田 光 子 平 井 伸 之 五ノ井 浩 鈴木 静 悟 相 馬 寛 之 富 井 昭 次 服 部 正 巳 福 田 恭 一 藤 原 宏 行 百 瀬 俊 介	ポルト実施科目
バックステージ II	演習		2			村 松 幹 男 田 光 子 平 井 伸 之 五ノ井 浩 鈴木 静 悟 相 馬 寛 之 富 井 昭 次 服 部 正 巳 福 田 恭 一 藤 原 宏 行 百 瀬 俊 介	ポルト実施科目

科 目 名	授業形態	年次・単位数				教 員 名	備 考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
ロ ー ル プ レ イ ン グ 演 習	演習				2	村 松 幹 男	一部集中講義
						田 光 子	
						平 井 伸 之	
プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 演 習	演習				2	村 松 幹 男	
						田 光 子	
						平 井 伸 之	
舞 台 芸 術 研 修	演習			2		村 松 幹 男	集中講義
						田 光 子	
						平 井 伸 之	
舞 台 衣 装 (メ イ ク ・ ヘ ア メ イ ク を 含 む)	演習		2			藤 原 宏 行	ポルト実施科目
舞 台 装 置 入 門 (舞 台 デ ッ サ ン を 含 む)	演習		2			福 田 恭 一	ポルト実施科目
舞 台 木 材 道 具 製 作 演 習	演習			2		村 松 幹 男	一部集中講義
						平 井 伸 之	
						福 田 恭 一	
舞 台 映 像 製 作 入 門	実習	1				森 井 綾	
舞 台 映 像 編 集	実習		1			森 井 綾	
舞 踊 研 究	実習				1	村 松 幹 男	ポルト実施科目
						田 光 子	
						平 井 伸 之	
身 体 表 現	実技			1		村 松 幹 男	ポルト実施科目
						田 光 子	
						平 井 伸 之	
演 劇 入 門 I	実習	1				村 松 幹 男	ポルト実施科目
						田 光 子	
						平 井 伸 之	
演 劇 入 門 II	実習		1			村 松 幹 男	ポルト実施科目
						田 光 子	
						平 井 伸 之	
照 明 ・ 音 響 実 習 I	実習			1		村 松 幹 男	ポルト実施科目
						田 光 子	
						平 井 伸 之	
						五ノ井 浩	
						鈴木 静悟	
						相馬 寛之	
						富井 昭次	
						服部 正巳	
						百瀬 俊介	
照 明 ・ 音 響 実 習 II	実習				1	村 松 幹 男	ポルト実施科目
						田 光 子	
						平 井 伸 之	
						五ノ井 浩	
						鈴木 静悟	
						相馬 寛之	
						富井 昭次	
						服部 正巳	
						百瀬 俊介	

科 目 名	授業形態	年次・単位数				教 員 名	備 考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
教 育 原 理	講義	②				佐々木 雅 史 中 島 啓 子	
器 楽 I	実技	①				橋 本 卓 三 石 田 敏 明 浅 沼 恵 輔 佐々木 るり子 砂 田 眞理子 中 川 洋 子 前 田 有 紀 村 上 秀 子	
器 楽 II	実技		①			橋 本 卓 三 石 田 敏 明 浅 沼 恵 輔 佐々木 るり子 砂 田 眞理子 中 川 洋 子 前 田 有 紀 村 上 秀 子	
器 楽 応 用	実技			1		橋 本 卓 三 石 田 敏 明 浅 沼 恵 輔 佐々木 るり子 砂 田 眞理子 中 川 洋 子 前 田 有 紀 村 上 秀 子	
こ だ も の フ ァ ッ シ ョ ン	演習				2	大信田 静 子	
こ だ も と 絵 本	講義	2				藤 田 春 義	
こ だ も と 自 然	演習	2				太 田 俊 一	集中講義
こ だ も と 野 外 活 動	演習				2	太 田 俊 一	集中講義
赤 ち ゃ ん 学	講義			2		中 島 啓 子	
保 育 内 容 演 習 I	演習	2				橋 本 卓 三 石 田 敏 明 小 林 美 花 清 水 桂 子 高 橋 さおり 菜 原 桂 子 松 田 久 美	
保 育 内 容 演 習 II	演習		2			橋 本 卓 三 石 田 敏 明 長 尾 明 也 伊 藤 幸 子	
総 合 実 践 演 習	演習				2	橋 本 卓 三 石 田 敏 明 高 橋 さおり	

科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
幼児身体教育学	演習				2	長尾明也	
応用教育セミナーⅠ	講義			2		担当教員	
応用教育セミナーⅡ	講義				2	担当教員	
保育士関連科目							
児童家庭福祉	講義	2				勝井陽子	
社会福祉	講義	2				倉雅彦	
相談援助	演習			1		中島啓子	
社会的養護	講義		2			勝井陽子	
保育者論	講義	2				高橋さおり	
保育の心理学Ⅰ	講義	2				松田久美	
保育の心理学Ⅱ	演習			1		松田久美	
こどもの保健ⅠA	講義	2				佐藤恵美子	
こどもの保健ⅠB	講義		2			佐藤恵美子	
こどもの保健Ⅱ	演習			1		佐藤恵美子	
こどもの食と栄養	演習		2			木下教子	
家庭支援論	講義				2	中島啓子	
保育課程論	講義			2		小林美花	
乳児保育	演習		2			小林美花	
障害児保育	演習			2		北川真理子	
社会的養護内容	演習		1			勝井陽子	
保育相談支援	演習				1	西原真由美	
身体表現	演習	1				小林美花	
音楽表現	演習	1				清水桂子	
造形表現	演習	1				伊藤幸子 森迫暁夫	
言語表現	演習		1			菜原桂子	
保育実習Ⅰ	実習			4		勝井陽子	集中講義 学外実習
						小林美花	
						清水桂子	
保育実習指導ⅠA	演習		1			清水桂子	
						勝井陽子	
						小林美花	
保育実習指導ⅠB	演習				1	勝井陽子	
						小林美花	
						清水桂子	
保育実践演習	演習				2	小林美花	
						中島啓子	
						菜原桂子	
現代こども学	講義				2	菜原桂子	保育コース必修科目
保育実習Ⅱ	実習			2		小林美花	集中講義 学外実習
						勝井陽子	
						清水桂子	
保育実習Ⅲ	実習			2		勝井陽子	集中講義 学外実習
						小林美花	
						清水桂子	

科 目 名	授業 形態	年次・単位数				教 員 名	備 考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
保 育 実 習 指 導 II	演習			1		小 林 美 花	
						勝 井 陽 子	
						清 水 桂 子	
保 育 実 習 指 導 III	演習			1		勝 井 陽 子	集中講義
						小 林 美 花	
						清 水 桂 子	
幼稚園教諭関連科目							
幼 児 理 解 の 理 論 と 方 法	講義				2	松 田 久 美	
保育士・幼稚園教諭関連科目							
保 育 原 理	講義	②				菜 原 桂 子	
保 育 内 容 総 論	演習		②			清 水 桂 子	
保 育 内 容 環 境	演習		2			菊 地 達 夫	
保 育 内 容 人 間 関 係	演習			2		菜 原 桂 子	
保 育 内 容 言 葉	演習		2			太 田 俊 一	
保 育 内 容 表 現	演習	2				菜 原 桂 子	
保 育 内 容 健 康	演習				2	長 尾 明 也	
幼稚園・小学校教諭関連科目							
教 職 概 論	講義	②				太 田 俊 一	
教 育 心 理 学	講義		②			松 田 久 美	
教 育 課 程 論	講義			2		高 橋 さおり	
教育方法論（情報機器・教材活用を含む）	講義	②				佐々木 雅史	
教育相談とカウンセリング	講義	2				松 田 久 美	
教 育 実 習 講 義 I	講義		2			佐々木 雅史	事前指導を含む
						中 島 啓 子	
						菜 原 桂 子	
						松 田 久 美	
教 育 実 習 講 義 II	講義			2		佐々木 雅史	
						中 島 啓 子	
						菜 原 桂 子	
						松 田 久 美	
教 育 実 習	実習			4	4	佐々木 雅史	事後指導を含む 集中講義 学外実習
						中 島 啓 子	
						菜 原 桂 子	
						松 田 久 美	

こども学科 学科専門科目 コース共通科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
教職実践演習(幼・小)	演習				2	佐々木 雅史	
						太田 俊一	
						高橋 さおり	
						菜原 桂子	
						松田 久美	
国語(書写を含む)	講義		2			高橋 さおり	教育コース必修科目
算数	講義		2			佐々木 雅史	教育コース必修科目
生活	講義		2			菜原 桂子	
音楽	講義	2				橋本 卓三	
						石田 敏明	
図画工作	講義		2			伊藤 幸子	
体育	講義		2			長尾 明也	
						山本 公輔	

こども学科 学科専門科目 コース専門科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
保育コース							
幼児体育指導法	演習		2			長尾 明也	保育コース必修科目 集中講義
こどもの遊び論	演習			2		長尾 明也	保育コース必修科目
こどもの表現遊び研究	演習			2		清水 桂子	
こどもの造形遊び研究	演習			2		入江 彩子	
こどもの運動遊び研究	演習			2		大宮 真一	
音楽コース							
こどものリズム表現Ⅰ	演習		2			武井 歌織	音楽コース必修科目
こどものリズム表現Ⅱ	演習				2	武井 歌織	
音楽療法概論	演習			2		澤田 悦子	音楽コース必修科目
音楽療法演習	演習				2	澤田 悦子	音楽コース必修科目
こどものうた研究	演習			2		橋本 卓三	
こどもの合奏研究	演習			2		石田 敏明	
こどもの音楽研究	演習			2		橋本 卓三	
						石田 敏明	

こども学科 学科専門科目 コース専門科目

○単位は必修

科 目 名	授業 形態	年次・単位数				教 員 名	備 考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
教育コース 小学校教諭関連科目							
社 会 科	講義	2				菊 地 達 夫	
理 科	講義	2				太 田 俊 一	
家 庭 科	講義	2				角 田 成 子	
国 語 科 指 導 法	講義			2		高 橋 さおり	
社 会 科 指 導 法	講義			2		菊 地 達 夫	
算 数 科 指 導 法	講義			2		佐々木 雅 史	
理 科 指 導 法	講義			2		太 田 俊 一	
生 活 科 指 導 法	講義			2		菊 地 達 夫	
音 楽 科 指 導 法	講義			2		石 田 敏 明 橋 本 卓 三	
図 画 工 作 科 指 導 法	講義			2		入 江 彩 子	
家 庭 科 指 導 法	講義			2		角 田 成 子	
体 育 科 指 導 法	講義			2		長 尾 明 也	
道 徳 指 導 法	講義		1			高 橋 さおり	
特 別 活 動 指 導 法	講義		1			高 橋 さおり	
生 徒 指 導 (進 路 指 導 を 含 む)	講義			2		佐々木 雅 史	
外 国 語 活 動	講義			2		長 尾 明 也	教育コース必修科目
小 学 校 教 育 教 材 研 究	講義		2			高 橋 さおり 太 田 俊 一 菊 地 達 夫 佐々木 雅 史	
小 学 校 教 育 授 業 研 究	講義				2	高 橋 さおり 太 田 俊 一 菊 地 達 夫 佐々木 雅 史	

4) 各種資格

[こども学科]

①保育士

北翔大学短期大学部 保育士養成課程履修規程

(目的)

第1条 この規程は、北翔大学短期大学部学則（以下「学則」という。）第64条第2項の規定に基づき、北翔大学短期大学部（以下「本学」という。）に置く児童福祉法（昭和22年法律第164号）に規定する保育士の資格を得させるための課程（以下「養成課程」という。）の履修に関し必要な事項を定めるものとする。

(養成課程の設置)

第2条 前条に規定する養成課程の名称は、「北翔大学短期大学部保育士養成課程」と称する。

2 前項の養成課程は、本学こども学科とする。

(位置)

第3条 前条の養成課程の位置は、北海道江別市文京台23番地とする。

(学生定員及び学級数)

第4条 養成課程の学生定員及び学級数は、次のとおりとする。

- (1) 学生定員 140人
- (2) 総定員 280人
- (3) 学級数 1学年 3学級

(養成課程の履修資格)

第5条 こども学科に所属し、保育士の資格を得ようとする学生で、養成課程を履修することができる者は、原則として、次の各号に該当すると認めたとする。

- (1) 学力が優良で、出席が常である者
- (2) 学則第61条に規定する本学の卒業要件を満たす見込みがある者

(教育課程)

第6条 養成課程の教育課程は、児童福祉法施行規則（昭和23年厚生省令第11号）の規定に基づき、厚生労働大臣の定める告示（平成22年7月13日厚生労働省告示第278号をいう。以下「告示」という。）に定める次の各号に掲げる科目の区分により開講する授業科目をもって編成する。

(1) 必修科目

- イ 保育の本質・目的に関する科目
- ロ 保育の対象の理解に関する科目
- ハ 保育の内容・方法に関する科目
- ニ 保育の表現技術
- ホ 保育実習
- ヘ 総合演習

(2) 選択必修科目

- イ 保育の本質・目的に関する科目
- ロ 保育の対象の理解に関する科目
- ハ 保育の内容・方法に関する科目
- ニ 保育の表現技術
- ホ 保育実習

(3) 教養科目

2 前項各号に規定する授業科目の名称及び単位数は、保育士養成課程履修科目対照表に定める別表第1「必修科目」、別表第2「選択必修科目」及び別表第3「教養科目」とおとりとする。

(養成課程の履修及び単位の修得方法)

第7条 保育士の資格を得ようとする者は、別表第1に掲げる授業科目57単位、別表第2に掲げる授業科目から同表の定めるところにより9単位以上及び別表第3に掲げる授業科目から同表の定めるところにより8単位以上を修得しなければならない。

2 前項に規定する授業科目の単位の計算方法は、学則第39条の規定によるものとする。

(養成課程の履修登録及び取消)

第8条 養成課程を履修しようとする学生は、各学期の始めの所定の期日までに、保育士養成課程の履修を登録しなければならない。

2 前項の登録をしていない学生は、養成課程を履修することができない。

3 養成課程を履修している学生が、養成課程の履修を中止しようとするときは、各学期の始めの所定の期日までに保育士養成課程の履修を取消さなければならない。

(履修科目の登録)

第9条 養成課程を履修し、第6条に規定する養成課程の授業科目を履修するときは、履修しようとする授業科目を登録しなければならない。

2 前項の履修登録及び授業科目の履修は、学則第41条の規定によるものとする。

(保育実習の履修資格)

第10条 養成課程を履修する学生で、保育実習Ⅰを履修することができる者は、原則として、当該実習を開始する前に、第7条第1項に定める別表第1に掲げる授業科目のうち、次に掲げる授業科目を履修している者とする。

- (1) 保育原理 2単位
- (2) 保育実習指導ⅠA 1単位
- (3) 保育内容総論 2単位

(保育実習の履修方法等)

第11条 別表第1及び別表第2に掲げる授業科目のうち保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ及び保育実習Ⅲを履修する者は、各年次の所定の期日までに「保育実習履修願」を教職センターに提出しなければならない。

2 前項の願出に基づき、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ及び保育実習Ⅲの実習施設を指定し、その結果を当該学生に通知する。

(保育実習の履修の取消又は停止)

第12条 保育実習の履修は、本人の性行不良、学力劣等その他の事由により保育士として適格性を欠くと認められる場合は、これを取り消し又は停止することができるものとする。

(単位の授与、他の大学等における授業科目の履修、入学前の既修得単位等の認定、試験及び成績判定の取扱い)

第13条 履修した授業科目の単位の授与、他の大学等における授業科目の履修、入学前の既修得単位等の認定、試験及び成績判定の取り扱いは、学則第42条、第44条、第46条、第49条及び第50条の規定を適用するものとする。ただし、別表第1及び別表第2に掲げる授業科目の第44条及び第46条の規定の適用については、当該他の短期大学又は大学が指定保育士養成施設の場合に限るものとする。

(保育士資格の取得及び保育士登録)

第14条 保育士となる資格は、第7条第1項に規定する所定の単位を修得するほか、学則第40条第4項に規定する所定の単位を修得し、第62条の規定により卒業の認定を受け、本学を卒業した者に与えられる。

2 前項の保育士となる資格を有する者が保育士となるには、児童福祉法第18条の18に規定する所定の登録を受けなければならない。

(養成課程の履修に係る費用の納付)

第15条 養成課程を履修しようとする者及び履修している者は、第8条に規定する保育士養成課程の履修登録を行い、第9条に規定する履修科目の登録の際に、北翔大学学費等納付金規程の定めるところにより所定の保育士養成課程履修費を納付しなければならない。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、養成課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

(改正)

第17条 この規程の改正は、教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (大学の名称変更に伴う改正)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (規程の整備等に伴う改正)

この規程は、平成17年7月12日から施行し、平成17年度入学者から適用する。

附 則 (教育課程の改正等に伴う改正)

この規程は、平成18年4月25日から施行し、平成18年度入学者から適用する。

附 則 (大学名称の変更に伴う改正)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (別表の改正に伴う改正)

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成19年3月31日に在学する者については、なお従前の例による。

附 則 (教育課程の改正等に伴う改正)

- 1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成21年3月31日に在籍する者については、なお従前の例による。

附 則 (教育課程の変更に伴う改正)

- 1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日に在籍する者については、なお従前の例による。

附 則 (法改正による保育士養成課程の変更に伴う改正)

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日に在籍する者については、なお従前の例による。
附 則（教育課程の変更に伴う改正）
- 1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日に在籍する者については、なお従前の例による。
附 則（教育課程の変更に伴う改正）
- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日に在籍する者については、なお従前の例による。

北翔大学短期大学部 保育士養成課程履修科目対照表

別表第1 「必修科目」

系列	告示別表第1による教科目				左記に対応する本学開設授業科目等				
	教科目	授業形態	単位数	授業科目名	授業形態	単位数		備考	
						必修	選択		
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2			
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2			
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義	2			
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2			
	相談援助	演習	1	相談援助	演習	1			
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義	2			
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2			
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	講義	2	保育の心理学Ⅰ	講義	2			
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	保育の心理学Ⅱ	演習	1			
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	こどもの保健ⅠA	講義	2			
				こどもの保健ⅠB	講義	2			
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	こどもの保健Ⅱ	演習	1			
	子どもの食と栄養	演習	2	こどもの食と栄養	演習	2			
家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義	2				
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	保育課程論	講義	2			
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2			
	保育内容演習	演習	5	保育内容環境	演習	2			
				保育内容人間関係	演習	2			
				保育内容言葉	演習	2			
				保育内容表現	演習	2			
				保育内容健康	演習	2			
	乳児保育	演習	2	乳児保育	演習	2			
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2			
	社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習	1			
保育相談支援	演習	1	保育相談支援	演習	1				
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	身体表現	演習	1			
				音楽表現	演習	1			
				造形表現	演習	1			
				言語表現	演習	1			
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ	実習	4			
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導ⅠA	演習	1			
保育実習指導ⅠB				演習	1				
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	2			
合計			51単位	必要修得単位数 合計		57単位			

別表第2 「選択必修科目」

告示別表第2による教科目				左記に対応する本学開設授業科目等				
系列	教科目	授業形態	単位数	授業科目名	授業形態	単位数		備考
						必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目 保育の対象の理解に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15 単位 以上	赤ちゃん学	講義		2	
				現代こども学	講義		2	
				総合実践演習	演習		2	
				こどもと安全	講義		2	
保育の表現技術			15 単位 以上	こどもと自然	演習		2	
				幼児身体教育学	演習		2	
				器楽Ⅰ	実技	1		
				器楽Ⅱ	実技	1		
				器楽応用	実技	1		
				こどもと野外活動	演習		2	
				こどもと絵本	講義		2	
こどものファッション	演習		2					
保 育 実 習	保育実習Ⅱ又は 保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	実習 実習		2 2	2単位以上 選択必修
	保育実習指導Ⅱ 又は 保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	演習 演習		1 1	1単位以上 選択必修
合 計			18単位以上	必要修得単位数	合 計		9単位以上	

別表第3 「教 養 科 目」

告示による教科目				左記に対応する本学開設授業科目等				
系列	教科目	授業形態	単位数	授業科目名	授業形態	単位数		備考
						必修	選択	
教 養 科 目	外国語、体育 以外の科目	不 問	6 以 上	日本国憲法	講義		2	
				情報機器操作Ⅰ	演習	2		
				基礎教育セミナーⅠ	講義	2		
	外 国 語	演習	2	英語コミュニケーションⅠ	演習	2		
体 育		講義	1	健康体育（実技を含む）	講義・実技		2	
		実技	1					
合 計			10単位以上	必要修得単位数	合 計		8単位以上	

合 計			79単位以上	必要修得単位数	総 計		74単位以上	
-----	--	--	--------	---------	-----	--	--------	--

備考：1) 別表第1から別表第3までに掲げる授業科目から、必修科目及び選択必修科目を履修して修得する単位を含め、所要の授業科目を履修して74単位以上を修得すること。

②社会福祉主事（任用資格）

社会福祉主事とは、社会福祉法及び福祉六法の施行に関する都道府県知事または市町村長の事務執行を補助する公務員である。福祉事務所の指導監督を行う所員と現業を行う所員は社会福祉主事ではないと規定されているので、その大部分は福祉事務所に配置されている。

<資格要件>社会福祉法第19条

「社会福祉主事は、都道府県知事又は市町村長の補助機関である職員とし、年齢20年以上の者であって、人格が高潔で、思慮が円熟し、社会福祉の増進に熱意があり」学校教育法に基づく大学において下記の社会福祉の資格に関する指定科目の中から3科目以上の単位を修得して卒業した者とされている。

厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目

社会福祉概論、社会福祉事業史、社会福祉援助技術論、社会福祉調査論、社会福祉施設経営論、社会福祉行政論、社会保障論、公的扶助論、児童福祉論、家庭福祉論、保育理論、身体障害者福祉論、知的障害者福祉論、精神障害者保健福祉論、老人福祉論、医療社会事業論、地域福祉論、法学、民法、行政法、経済学、社会政策、経済政策、心理学、社会学、教育学、倫理学、公衆衛生学、医学一般、リハビリテーション論、看護学、介護概論、栄養学及び家政学のうち3科目以上

<こども学科における指定科目>

こども学科においては、以下の3科目を履修・修得すること。

厚生労働大臣の指定する 社会福祉に関する科目	本学開設科目	単 位	備 考
社 会 福 祉 概 論	社 会 福 祉	2	学科専門科目
保 育 理 論	保 育 原 理	2	
教 育 学	教 育 原 理	2	

任用資格とは、その職に就くために国が定めた基準のことをいい、資格要件を満たしていればその職の任用資格に該当し、有資格者と認められる。一般的には卒業証書や成績証明書で確認される。

※本学において「社会福祉主事任用資格取得（見込）証明書」を発行している。自分で資格要件を確認し、必要に応じて申請すること。

③幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級・1級

幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格は、非特定営利活動法人リトミック研究センター認定資格である。

リトミックは、スイスの音楽家・教育家であるエミール・ジャック＝ダルクローズが創案した音楽教育法で、音楽の基礎能力を高めるだけでなく、集中力、思考力、判断力、記憶力、創造力、表現力を高め、豊かで可能性あふれる人格形成を目的とした教育である。現在、幼稚園・保育園など幼児教育機関では、積極的にリトミックを取り入れており、保育者にもその指導が求められつつある。

2級は3歳児、1級は4・5歳児を対象にした指導資格である。

<資格要件>

幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格は、下表に定める本学所定の単位を履修し、単位認定試験（資格検定試験）に合格した者が資格認定の申請をすることで取得することができる。

級	本学開講科目	開講年次	単位数
2級	こどものリズム表現Ⅰ	1	2
1級	こどものリズム表現Ⅱ	2	2

④こども環境管理士

保育・幼児教育のあり方を示す、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の解説書には、豊かな感性を育むために大切なこととして、以下のようなことが書かれている。例えば、保育指針解説書「保育の環境」として、「保育環境をいかに構成していくかが保育の質に関わる」、幼稚園教育要領解説「環境を通して行う教育」として、「自分から興味をもって環境に関わることによって様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わうという体験が重視されなければならない」とある。これらを踏まえ適切な保育を実践するには、「自然と触れ合える環境を身近に確保すること」である。

自然を相手にした遊びの中で、子どもたちの五感は刺激され、豊かな感性が育まれる。また、さまざまな発見や工夫から創造性や独創性が芽生え、友達と協力することで自発性や社会性が身に付く。

このような大切な環境づくりを実践できる保育（教育）者であることを証明するものが、「こども環境管理士」資格である。資格の種類として、2級（筆記試験）と1級（筆記試験と口述試験）がある。例年の筆記試験は、11月の実施。また、資格の内容は、保育だけではなく、小学校の生活科、理科、社会科、家庭科等にも関連している。

詳細は、日本生態系協会のHP。

<必要取得科目>

履修要件科目はない。

保育内容5領域（総論を含む）、生活、生活科指導法、理科、理科指導法、社会、社会科指導法、家庭、家庭科指導法等の関連内容の履修が望ましい。

<その他>

本資格（2級）は、こども学科教育コースで推奨しているが、他コース・他学科生も受験可。授業以外に受験対策講座を実施します。

5) 教職課程

こども学科では、下記に示す教育職員免許状の課程を有しています。それぞれ所定の単位を修得したのものには、申請することにより当該免許状が授与されます。

(Ⅲ 学習 北翔大学短期大学部教職課程履修規程86p. 参照)

- こども学科 小学校教諭 2種免許状
幼稚園教諭 2種免許状

免許状取得に必要な修得単位は次の通りです。

- ・日本国憲法 2単位、英語コミュニケーション I 2単位、健康体育（実技を含む） 2単位、情報機器操作 I 2単位を修得。
- ・別表第1、別表第2に定める「教科に関する科目」、「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」の単位を含み卒業に必要な単位を修得。

小学校教諭 2種免許状を取得する者は上記2つに加え、特別支援学校及び定められた社会福祉施設等で7日間の介護等の体験を行い、校長又は施設長の証明書をもらい、教育職員免許状を申請する際に授与申請書とともに提出しなければなりません。

北翔大学短期大学部 教職課程履修規程

(目的)

第1条 この規程は、北翔大学短期大学部学則（昭和38年4月1日施行。以下「学則」という。）第64条第3項の規定に基づき、北翔大学短期大学部（以下「本学」という。）に置く教育職員免許法（昭和24年法律第147号）に規定する教育職員免許状（以下「免許状」という。）授与の所要資格を得させるための課程（以下「教職課程」という。）の履修に関し必要な事項を定めるものとする。

(免許状の種類)

第2条 本学において、取得することができる免許状の種類及び免許教科は、次の表に掲げるとおりとする。

学 科	免許状の種類
こども学科	小学校教諭2種免許状
	幼稚園教諭2種免許状

(教職課程の履修資格)

第3条 前条に規定する免許状を得ようとする学生で、教職課程を履修することができる者は、原則として、次の各号に該当すると認めたとする。

- (1) 学力が優良で、出席が常である者
- (2) 学則第62条に規定する本学の卒業要件を満たす見込がある者
- (3) その他教育職員免許法第5条に規定する免許状の授与が見込まれる者

(教職課程の教育課程)

第4条 本学に置く教職課程の教育課程は、第2条に規定する免許状の種類に応じて、次の各号に掲げる科目の区分により開講する授業科目をもって編成する。

- (1) 教科に関する科目
- (2) 教職に関する科目
- (3) 教科又は教職に関する科目
- (4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に規定する科目

(教職課程の履修及び単位の修得方法)

第5条 教職課程を履修し、第2条に規定する免許状を得ようとする者は、次の表に掲げる免許状の種類及び免許教科の区分に応じ、それぞれ前条各号に定める科目の区分に定める単位を修得しなければならない

学 科	免許状の種類	教科に関する科目	教職に関する科目	免許法施行規則科目	合計単位数
こども学科	小学校教諭2種	7単位	38単位	8単位	53単位
	幼稚園教諭2種	7単位	34単位	8単位	49単位

2 前項に規定する免許状の種類及び免許教科に応じて開設する授業科目、単位数及び単位修得の方法は、別表第1から別表第2に定めるとおりとする。

(教職課程の履修登録及び取消)

第6条 教職課程を履修しようとする学生は、各学期の始めの所定の期日までに教職課程の履修を登録しなければならない。

2 前項の登録をしていない学生は、教職課程を履修することができない。

3 教職課程を履修している学生が、教職課程の履修を中止しようとするときは、各学期の始めの所定の期日までに教職課程の履修を取消さなければならない。

(教職に関する科目の履修登録)

第7条 教職課程を履修し、第4条第2号に規定する教職に関する科目(学則第36条第3項ただし書の規定に該当する授業科目を除く。以下同じ。)を履修するときは、履修しようとする授業科目を登録しなければならない。

2 前項の履修登録及び授業科目の履修は、学則第42条の規定によるものとする。

(教育実習の履修資格)

第8条 教職課程を履修する学生のうち、小学校教諭2種免許状及び幼稚園教諭2種免許状を取得しようとする者で、第5条第2項に定める別表第1及び別表第2に掲げる授業科目中、(2)「教職に関する科目」欄の「教育実習」を履修することができる者は、原則として、当該実習開始の前年度までに、次に掲げる授業科目を履修し、所定の単位を修得して、教職センター運営委員会において認められた者とする。

(1) 第4条第2号に規定する「教職に関する科目」のうち、次に掲げる科目及び単位

イ 教職概論	2単位
ロ 教育原理	2単位
ハ 教育相談とカウンセリング	2単位
ニ 教育実習講義I	2単位

(2) 第4条第4号に規定する「教育職員免許法施行規則第66条の6に規定する科目」のうち、日本国憲法2単位

(教育実習の履修方法等)

第9条 教育実習を履修する学生は、所定の期日までに「教育実習履修願」を教職センターに提出しなければならない。

2 前項の願出に基づき、教育実習の実習施設を指定し、その結果を当該学生に通知する。

(教育実習の履修の取消又は停止)

第10条 教育実習の履修は、本人の性行不良、学力劣等その他の事由により教員として適格性を欠くと認められる場合は、これを取り消し又は停止することができるものとする。

(教職実践演習の履修資格について)

第11条 教職課程を履修する学生のうち、小学校教諭2種免許状及び幼稚園教諭2種免許状を取得しようとする者で、第5条第2項に定める別表1及び別表2に掲げる授業科目中、(2)「教職に関する科目」欄の「教職実践演習(幼・小)」を履修することができる者は、それぞれの免許状取得に必要な(1)「教科に関する科目」及び(2)「教職に関する科目」の全てを修得済み又は当該科目と同一の開講時期に修得見込みの者に限る。

(教職課程の履修に係る費用の納付)

第12条 教職課程を履修しようとする学生及び履修している学生は、第6条に規定する教職課程の履修登録を行い、北翔大学学費等納付金規程の定めるところにより所定の教職課程履修費を納付しなければならない。

2 前項に定める教職課程履修費を所定の期日までに納付しないときは、教職課程の履修を取り消したものとみなす。

(教育職員免許状の申請手続き)

第13条 教育職員免許状の申請に関する手続きは、教職センターにおいて行う。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、教職課程の履修に関し必要な事項は、教職センター運営委員会の議を経て、学長が別に定める。

(改正)

第15条 この規程の改正は、教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行し、平成14年度入学生から適用する。

附 則（服飾美術学科及び保健体育学科に置かれていた教職課程を廃止し、新たに人間総合学科に教職課程を置くことに伴う改正）

- 1 この規程は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 平成15年3月31日に本学に在学する者については、なお従前の例による。

附 則（学則の一部改正により教育課程の一部が変更されたことに伴い教科に関する科目の一部改正に伴う改正）

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行し、平成16年度入学者から適用する。
- 2 平成15年3月31日に本学に在学する者については、なお従前の例による。

附 則（学則の一部改正により初等教育学科が廃止され、こども学科が設置されたこと、人間総合学科の教育課程が変更されたこと及び規程の整備等に伴う改正）

- 1 この規程は、平成17年4月1日から施行し、平成17年度入学者から適用する。
- 2 平成17年3月31日に本学に在学する者については、なお従前の例による。

附 則（大学の名称変更及び事務局組織機構の変更に伴う改正）

- 1 この規程は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成17年3月31日に本学に在学する者については、なお従前の例による。

附 則（規程の整備等に伴う改正）

- 1 この規程は、平成17年7月12日から施行し、平成17年度入学者から適用する。
- 2 平成17年3月31日に本学に在学する者については、なお従前の例による。

附 則（教育課程の改正に伴う改正）

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成18年3月31日に本学に在学する者については、なお従前の例による。

附 則（校名変更に伴う改正）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（人間総合学科の中学校教諭2種免許状家庭、養護教諭2種免許状の課程認定取り下げ、機構改編及び教育課程の改正に伴う改正）

- 1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。
 - 2 平成21年3月31日に本学に在籍する者については、なお従前の例による。
- 附 則（法令改正、教育課程改正、機構改編及び規程の整備等に伴う改正）

- 1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日に本学に在籍する者については、なお従前の例による。

附 則（規程の整備及び教育課程の変更に伴う改正）

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日に本学に在籍する者については、なお従前の例による。

附 則（人間総合学科の中学校教諭2種免許状（保健体育）の課程認定取り下げ及び規程の整備に伴う改正）

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日に本学に在籍する者については、なお従前の例による。

附 則（単位の修得方法、教育課程の改正及び規程の整備に伴う改正）

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日に本学に在籍する者については、なお従前の例による。

附 則（授業科目の一部について履修資格を定めたこと及び規程の整備に伴う改正）

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。但し、第12条については、平成26年度入学生から適用する。

附 則（単位の修得方法及び教育課程の改正に伴う改正）

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日に本学に在籍する者については、なお従前の例による。

別表第1 (第5条第2項関係) こども学科

小学校教諭2種免許状の授業科目及び単位修得方法

(1) 教科に関する科目 (第4条第1号)

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設授業科目等			
科目名	単位数	授業科目	必修	選択	備考
国語 (書写を含む。)	1 以上の 科目に ついて 計4 単位以 上	国語 (書写を含む)		※2	※印の9科 目から2科 目4単位以 上選択必修
社会		社会		※2	
算数		算数		※2	
理科		理科		※2	
生活		生活		※2	
音楽		音楽 I	①		
		音楽 II	①		
		音楽応用	①		
図画工作		図画工作		※2	
家庭		家庭		※2	
体育	体育		※2		
合計	4	合計必要修得単位数	3	4以上	計7以上

(2) 教職に関する科目 (第4条第2号)

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設授業科目等			
科目名	単位数	授業科目	必修	選択	備考
教職の意義等に関する科目	2	教職概論	②		
		教職の意義及び教員の役割			
		教員の職務内容 (研修、服務及び身分保障等を含む。)			
教育の基礎理論に関する科目	4	教育原理	②		
		教育心理学	②		
		(教育原理に含む)			
教育課程及び指導法に関する科目	14	教育課程論	②		
		国語科指導法		2	※印の3科 目から2科 目4単位以 上を含め6 科目12単位 以上選択必修
		社会科指導法		2	
		算数科指導法		2	
		理科指導法		2	
		生活科指導法		2	
		音楽科指導法		※2	
		図画工作科指導法		※2	
		家庭科指導法		2	
		体育科指導法		※2	
道徳の指導法		①			
特別活動の指導法		①			
教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)		教育方法論 (情報機器・教材活用を含む)	②		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	生徒指導 (進路指導を含む)	②		
		生徒指導の理論及び方法			
		進路指導の理論及び方法			
教育実習	5	教育実習講義 I	②		
		教育実習講義 II	②		
		教育実習	④		
教職実践演習	2	教職実践演習 (幼・小)	②		
合計	31	合計必要修得単位数	26	12以上	計38以上

(3) 教科又は教職に関する科目 (第4条第3号)

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設授業科目等			
科目名	単位数	授業科目	必修	選択	備考
教科又は教職に関する科目	2	外国語活動		2	

(4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に規定する科目 (第4条第4号)

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設授業科目等			
科目名	単位数	授業科目	必修	選択	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	②		
体育	2	健康体育 (実技を含む)	②		
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーション I	②		
情報機器の操作	2	情報機器操作 I	②		
合計	8	合計必要修得単位数	8		計8
総計	45	総計必要修得単位数	37	16以上	計53以上

備考：1) 本学が開設する授業科目中、○数字は必修科目の単位数を、※印数字は選択必修科目の単位数を示す。

2) (1)、(2)及び(4)に掲げる授業科目から、必修科目及び選択必修科目を履修して修得する単位を含め、所要の授業科目を履修して53単位以上を取得すること。

別表第2 (第5条第2項関係) こども学科

幼稚園教諭2種免許状の授業科目及び単位修得方法

(1) 教科に関する科目 (第4条第1号)

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設授業科目等			
科目名	単位数	授業科目	必修	選択	備考
国語	計14以上 単位の科目 について	国語(書写を含む)		※2	※印の6科目 から2科目 4単位以上 選択必修
算数		算数		※2	
生活		生活		※2	
音楽		音楽		※2	
		器楽Ⅰ	①		
		器楽Ⅱ	①		
図画工作		器楽応用	①		
体育		図画工作		※2	
		体育		※2	
合計	4	合計必要修得単位数	3	4以上	計7以上

(2) 教職に関する科目 (第4条第2号)

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設授業科目等			
科目名	単位数	授業科目	必修	選択	備考
教職の意義等に関する科目	2	教職概論	②		
教育の基礎理論に関する科目	4	教育原理	②		
		保育原理	②		
		教育心理学	②		
		(教育原理に含む)			
教育課程及び指導法に関する科目	12	教育課程論	②		※印の5科目 から3科目 6単位以上 選択必修
		保育内容総論	②		
		保育内容環境		※2	
		保育内容人間関係		※2	
		保育内容言葉		※2	
		保育内容表現		※2	
		保育内容健康		※2	
		こどもと野外活動		2	
		こどもと絵本		2	
		教育方法論(情報機器・教材活用を含む)	②		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	2	幼児理解の理論と方法	②		
		教育相談とカウンセリング	②		
教育実習	5	教育実習講義Ⅰ	②		
		教育実習講義Ⅱ	②		
		教育実習	④		
教職実践演習	2	教職実践演習(幼・小)	②		
合計	27	合計必要修得単位数	28	6以上	計34以上

(3) 教育職員免許法施行規則第66条の6に規定する科目 (第4条第4号)

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設授業科目等			
科目名	単位数	授業科目	必修	選択	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	②		
体育	2	健康体育(実技を含む)	②		
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ	②		
情報機器の操作	2	情報機器操作Ⅰ	②		
合計	8	合計必要修得単位数	8		計8

総計	39	総計必要修得単位数	39	10以上	計49以上
----	----	-----------	----	------	-------

備考: 1) 本学が開設する授業科目中、○数字は必修科目の単位数を、※印数字は選択必修科目の単位数を示す。

2) (1)から(3)までに掲げる授業科目から、必修科目及び選択必修科目を履修して修得する単位を含め、所要の授業科目を履修して49単位以上を取得すること。

6) 放送大学単位互換について

放送大学は、放送大学学園（文部科学省・総務省所管）によって設置された正規の大学です。

近年の多様な学習意欲の高まりに対応したカリキュラムが組まれており、学士・修士の学位取得やキャリアアップ・自己実現など、生涯学習を目指す方が幅広く学んでいます。

本学では、本学が指定する授業科目を受講し単位を取得した場合、その単位を本学の卒業単位として認定する制度を設けています。学科ごとに教育目標に合うカリキュラムを選択し、学期が始まる前にお知らせします。放送大学のカリキュラムを受講できる学期は、原則として1年次後学期と2年次前学期です。

受講手続き

- ・ 指定の期日までに「履修願」を学習支援オフィスに提出。
- ・ 本学教授会において履修を承認。
- ・ 1科目2単位につき11,000円の授業料を納付します。

展開方法

- ・ 授業は本学の指定された教室または北海道学習センター（北海道大学構内）で、ビデオテープ、オーディオテープにより行われます。
 - * 受講者数が40人を超えた場合は本学で、40人未満の場合は北海道学習センター（北海道大学構内）で行います。
- ・ 講義回数は1学期につき15回（週1回、45分）です。
- ・ 授業料には印刷教材（テキスト）が含まれます。
- ・ 学期途中で1回のレポートの提出が求められます。
- ・ 各学期の授業終了後に単位認定試験が実施されます。
- ・ 放送大学で取得した単位を卒業要件単位として認定する場合は選択科目とします。認定できる単位数の上限は、15単位です。

7) 札幌圏大学・短期大学間単位互換協定について

単位互換制度とは、この制度に参加する協定大学が提供する単位互換科目を各大学で履修し、それを所属大学の単位として認定する制度です。

この制度では、各大学（学部・学科）の特色ある科目が単位互換科目として提供されています。自分の専攻を深めるため、あるいは自分の大学にない科目を学ぶためなど、学生のみなさんの幅広い関心と興味に応じた履修機会が大幅に広がることが期待されています。

平成29年度は札幌圏の9大学（札幌学院大学・札幌国際大学・札幌大学・東海大学・藤女子大学・北翔大学・北星学園大学・北海道科学大学・酪農学園大学）と3短期大学（札幌国際大学短期大学部・北翔大学短期大学部・北星学園大学短期大学部）が協定大学となっています。

単位互換協定大学に在学する2年次以上の学生であれば、所属する大学の許可を受け、出願することができます。1年間に履修できる単位数は全ての協定大学を合わせて10単位で、授業料は原則として無料です（実習・実験等の授業で実費等の経費が必要な場合は徴収します）。

単位互換の各大学の提供科目や出願手続きなどについては4月上旬に説明会を開催します。また詳しいことについては学習支援オフィスにお問い合わせください。

3. 学費等納付金について

1) 学費等納付金

学科	内訳		前学期	後学期	年度計
ライフデザイン学科 (一般学生2年)	学費	入学金	230,000円	—円	230,000円
		授業料	375,000円	375,000円	750,000円
		施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円
		計	730,000円	500,000円	1,230,000円
	その他の経費	自治会費(年額)	5,000円	—円	5,000円
		保険料(2年分)	2,430円	—円	2,430円
		同窓会費(終身)	40,000円	—円	40,000円
計	47,430円	—円	47,430円		
合計		777,430円	500,000円	1,277,430円	
ライフデザイン学科 (長期履修学生3年)	学費	入学金	230,000円	—円	230,000円
		授業料	250,000円	250,000円	500,000円
		施設設備費	83,400円	83,400円	166,800円
		計	563,400円	333,400円	896,800円
	その他の経費	自治会費(年額)	5,000円	—円	5,000円
		保険料(3年分)	3,620円	—円	3,620円
		同窓会費(終身)	40,000円	—円	40,000円
計	48,620円	—円	48,620円		
合計		612,020円	333,400円	945,420円	
ライフデザイン学科 (長期履修学生4年)	学費	入学金	230,000円	—円	230,000円
		授業料	187,500円	187,500円	375,000円
		施設設備費	62,500円	62,500円	125,000円
		計	480,000円	250,000円	730,000円
	その他の経費	自治会費(年額)	5,000円	—円	5,000円
		保険料(4年分)	4,660円	—円	4,660円
		同窓会費(終身)	40,000円	—円	40,000円
計	49,660円	—円	49,660円		
合計		529,660円	250,000円	779,660円	
こども学科 (一般学生2年)	学費	入学金	230,000円	—円	230,000円
		授業料	410,000円	410,000円	820,000円
		施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円
		計	765,000円	535,000円	1,300,000円
	その他の経費	自治会費(年額)	5,000円	—円	5,000円
		保険料(2年分)	2,430円	—円	2,430円
		同窓会費(終身)	40,000円	—円	40,000円
計	47,430円	—円	47,430円		
合計		812,430円	535,000円	1,347,430円	
こども学科 (長期履修学生3年)	学費	入学金	230,000円	—円	230,000円
		授業料	273,400円	273,400円	546,800円
		施設設備費	83,400円	83,400円	166,800円
		計	586,800円	356,800円	943,600円
	その他の経費	自治会費(年額)	5,000円	—円	5,000円
		保険料(3年分)	3,620円	—円	3,620円
		同窓会費(終身)	40,000円	—円	40,000円
計	48,620円	—円	48,620円		
合計		635,420円	356,800円	992,220円	
こども学科 (長期履修学生4年)	学費	入学金	230,000円	—円	230,000円
		授業料	205,000円	205,000円	410,000円
		施設設備費	62,500円	62,500円	125,000円
		計	497,500円	267,500円	765,000円
	その他の経費	自治会費(年額)	5,000円	—円	5,000円
		保険料(4年分)	4,660円	—円	4,660円
		同窓会費(終身)	40,000円	—円	40,000円
計	49,660円	—円	49,660円		
合計		547,160円	267,500円	814,660円	

※長期履修学生の授業料と施設設備費は、一般学生2年間の総額を長期履修が認められた期間で除した金額になります。長期履修学生3年においては差額が生じますので、最終年次(3年次)に調整いたします。

※長期履修学生3年の3年次学費等

学科	内訳	前学期	後学期	合計
ライフデザイン学科	授業料	250,000円	250,000円	500,000円
	施設設備費	83,200円	83,200円	166,400円
	自治会費	5,000円	－円	5,000円
	計	338,200円	333,200円	671,400円
こども学科	授業料	273,200円	273,200円	546,400円
	施設設備費	83,200円	83,200円	166,400円
	自治会費	5,000円	－円	5,000円
	計	361,400円	356,400円	717,800円

※長期履修学生が履修期間の短縮を認められた場合は、すでに納付済みの学費等を除いた残りの学費等を残りの学期で納付していただきます。

※入学金・保険料・同窓会費は初年度のみ。ただし、2年（長期履修学生は3・4年）を超えて在籍する場合は、別途保険料が必要となります。

※経済情勢などの変動により金額が改定されることがあります。

2) 別途徴収となる実習費・履修費

下記の特定期履修者については、別途実験実習料を納付していただきます。なお、備考に記載している年次は、標準履修年次等です。

●こども学科

学科	特定期目等	実験実習料	備考
こども学科	教職課程履修費	教育実習講義 I	(一般学生) 1年次 ※長期履修学生は在学する最終年次の前年度
		教育実習	(一般学生) 2年次 ※長期履修学生は最終年次
	保育士資格履修費	総額 50,000円	(一般学生 2年) 1年次 20,000円・2年次 30,000円
			(長期履修学生 3年) 2年次 20,000円・3年次 30,000円
(長期履修学生 4年) 3年次 20,000円・4年次 30,000円			

※教育職員免許状取得希望者で、介護等体験を必要とする場合は、社会福祉施設での体験に係る費用が必要となります。

※上記実験実習料の金額については、実習費用などの上昇及び教育職員免許状の取得方法並びに履修規程の改正などにより変更する場合があります。

※上記の他にも、演習・実習・見学・資格取得などで、別途費用が必要となる場合があります。

3) 納付期日

学費等の納付については、会計課から本学所定の振込依頼書を送付いたします（年2～4回）ので、必ずこの振込依頼書を使用して銀行などの金融機関の窓口でお振り込みください。振込依頼書送付予定日及び納付期日は下記のとおりです。

回	振込依頼書送付予定日	納付期日	納付内容
1回目	3月中旬 (初年度は合格通知等に同封)	4月30日 (初年度は入学手続時)	前学期 授業料 前学期 施設設備費 自治会費（年額）
2回目	6月下旬	7月下旬	前学期（通年含む）実験実習料
3回目	8月中旬	9月30日	後学期 授業料 後学期 施設設備費
4回目	11月中旬	12月中旬	後学期 実験実習料

※特定科目等を履修していない場合、2回目・4回目の実験実習料は発生いたしませんので、振込依頼書の送付はありません。

※実験実習料の前学期・後学期については、授業等が開講される学期になりますので、講義要綱でご確認ください。

※納付期日が金融機関の休業日にあたる場合は、翌営業日が納付期日となります。

※入学後の振込依頼書（2回目以降）は、入学手続時に提出された誓約書に記載されている保証人宛に送付いたします。保証人以外の者が学費を負担する場合は手続きが必要となりますので、会計課（TEL (011) 387-3393）にお問い合わせください。